



笑顔とやる気いっぱいの七中 生徒自らが常に鍛え続ける七中

# 七中だより



第 7 号 中野区立第七中学校 《学校だより》

令和6年11月28日

## 心震えた一日

文化的行事委員会  
実行委員長

10月26日(土)に行われた今年度の合唱コンクール。終わった瞬間、やり切ったという達成感よりも七中生の合唱にただただ感動していた。歌の魅力は聴いている人たちに感動や元気を与えることができる、また歌を歌うことでお互いの気持ちが一つになることだと思う。当日はその歌の魅力をもっと体現する一日になった。



七中に赴任して4年、今年度の合唱コンクールは実行委員長という立場で準備を進めてきた。第一回の実行委員会で、実行委員の生徒たちには「自分のことだけでなく、クラス全体・学年全体・学校全体のことを見て自らすすんで行動できるように」という話をした。練習期間中は、どのクラスも実行委員を中心に先の予定や計画を見通して行動し、互いに協力し合い声を掛け合って、準備から片付けまでスムーズに行うことができていた。だからこそ限られた時間の中でも充実した練習になったと思う。私自身昨年とは違い、クラスだけでなく学校全体を見て、動かしていくことは大変なことばかりであったが、先生方を含め生徒皆さんの協力があったからこそ乗り越えることができた。実行委員の皆さん、そして実行委員に協力してくれた生徒の皆さん、本当にありがとう。

さて、今年のスローガンは「想～届け 色鮮やかな Harmony～」であった。私はこの合唱コンクールを通して、様々な“想”に触れることができた。生徒一人一人の想い、クラスや学年の想い、歌詞や曲に込められた作者の想い、先輩から後輩へ、後輩から先輩へ伝えた想い。練習中はもちろん、昼休みや放課後にまで学校全体が毎日生徒の歌声であふれていた。振り返ると改めていい時間であったと思う。当日は、学年合唱やクラス合唱を通してその想いが表現されていた。素晴らしいステージで堂々と歌う姿、一つ一つの歌詞やソプラノ・アルトの美しい歌声とテノール・バスの力強い歌声がまとまって美しいハーモニーとなり観客を魅了していた。私も久しぶりに感動を覚え、思わず涙が流れた。特に3年生は、学年合唱の「大地讃頌」・各クラスの合唱ともに素晴らしい完成度で七中の最上級生にふさわしい



合唱であった。間近で聴いていた1・2年生は鳥肌が立った人も多かったのではないだろうか。



来年の合唱コンクールでは、2年生が七中の最上級生として、1年生は中堅学年として再び ZERO ホールのステージに立つ。今年の3年生のような合唱を、そして今年の3年生を超えていく合唱をつくってほしいと思う。そのためには今年の合唱コンクールを通して学んだことを、積み重ねてきた絆を、学年を越えて繋がれた想いを日常生活に還元していかなければならない。合唱コンクールを通して感じた七中生のパワーをより良い学校にしていくための力に変えていけるよう、これからの日常を大切に。頑張ろう七中生！そして素晴らしい合唱コンクールをありがとう！

